



東鍼同窓会だより

第5号
2011年11月発行

第14代同窓会会長に、天野寛敏氏が就任 同窓会は「卒業生のふるさと」

このたび、平成23年4月29日に開催された東洋鍼灸専門学校同窓会総会において会長を拝命いたしました昭和52年本科（現・鍼灸あん摩科）卒業の天野寛敏です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

学校・同窓会は「卒業生のふるさと」です。良き伝統・良き校風は時代の流れを見据えながら、先輩から後輩に連綿と伝えて行くもの。次代を担う向学心に燃える卒業生が、この業界で活躍し成業するためにも建設的なご意見を頂戴したいと思います。また、納得のゆく同窓会の運営を心掛けます。何卒、よろしくご協力の程お願い申し上げます。

東洋鍼灸専門学校同窓会、恩師・諸先輩・諸兄方々にご挨拶を申し上げます。

また、ご承知のように小泉内閣当時に進められた自由化推進・規制緩和で鍼灸学校が75校に急増いたしました。その影響は我が母校・東洋鍼灸専門学校にも及んでおり、とくに「鍼灸科」の入学希望者を募っております。

卒業生のみなさまが本校にお越し頂いた際はいつでも施設をご案内する用意がありますので、ご家族やご親戚・ご友人やお弟子のみなさま方にお薦めしていただければ甚だ幸いに存じます。何卒、御高配を賜りますよう、重ねてよろしくお願い申し上げます。



天野寛敏(あまの・ひろとし)
東洋鍼灸専門学校本科(現・鍼灸あん摩科)18回生、S52年度卒業。社団法人東京都鍼灸師会常任理事。「脳卒中・認知予防」鍼灸手技ネットワーク代表。天野はり灸院院長

■第13代同窓会会長、退任の御挨拶

3月の東北の大地震・福島原発事故・西日本の大雨と災害が続いておりますが、地元の同窓生のみなさまはご無事でしょうか、ボランティア活動で東北地方の被災地で活躍している同窓生の話も多く入ってきます。一日も早く復興してほしいものと願っています。

遅い報告で申し訳ありません。突然の東洋鍼灸専門学校校長就任依頼により、同窓会長との兼任ができなくなり、任期途中でありましたが同窓会長を退任し、後任に第14代同窓会長、天野寛敏先生を推薦いたしました。私が行いたかった、同窓生が中心となって行っている研究会は引き続き同窓会と学校とが協力して、同窓生や在校生も参加できる研究会などを開きたいと思います。よろしくお願いいたします。

東洋鍼灸専門学校校長 第13代同窓会会長 竹内廣尚

【入試事務局からのご案内】

★体験入学

実施内容／体験授業・受験案内・施設見学・個別相談 日時／H24年1月15日(日)13:00～、2月19日(日)13:00～

★学校見学は随時行っておりますので、お問い合わせください。

★入試日程

・一般入試B日程 鍼灸科、鍼灸あん摩マッサージ指圧科(昼・夜)

出願期間 H23年11月14日～12月7日 試験日 H23年12月11日

・社会人選抜入試B日程 鍼灸科(昼・夜)

出願期間 H24年1月10日～1月18日 試験日 H24年1月22日

・自己推薦入試B日程 鍼灸科(昼・夜)

出願期間 H24年1月23日～2月1日 試験日 H24年2月5日

鍼灸あん摩インタビュー

「伏見式経絡按摩」で働く女性の味方になる



仲田正美(なかた・まさみ)

東洋鍼灸専門学校鍼灸あん摩科45回生、H15年度卒業。在学2年時から伏見富士子先生に経絡按摩を教わり、『伏見式経絡按摩』の編集に携わる。在学中、三浦洋先生、三浦知子先生に師事。現在、マーガレット鍼灸院開業、東京都鍼灸師会所属。前職はアパレルマーケティング職

「やっぱりあん摩が好きだな。あん摩はアートです。創造性があれば広がる。鍼もアート。持つ人の力量であれば変わる施術はない。いろんなこと感じて、組み合わせる面白さはどんどん出てくる。実際に患者さんが来てくれると、東鍼に行って良かったと思う」

そう語るのは、平成15年に東鍼校を卒業した、仲田正美さん。下町浅草で経絡按摩を軸とした鍼灸院を開業。女性が施術していることがひと目で伝わるように、治療院を『マーガレット鍼灸院』と名づけました。鍼灸あん摩師として、下町の人々に愛されています。

「開業したての頃は週に1回、いろんな先生の所に修行にうかがいました。そうすると、近所のおばあちゃんたちが、お弁当を作って来てくれるんです。それも私と父の二人分。

『勉強に行く時にお腹すくだろうから』って。

丸2年お弁当をつくってくれたおばあちゃんがありました。「軌道には乗っていないけど、お陰様で何とか形になってきました」って報告すると、それはそれで喜んでくれて、また来てくれる。本当に下町は温かい。その分、早くご恩返しをしなくてはと日々プレッシャーです」

学生時代は伏見富士子先生に2年間師事。『伏見式経絡按摩』の編集もされたそうです。

「とても勉強になったのは、伏見先生の下足番兼治療見学。先生は生徒を怒らない。褒める。でも褒められているうちは見込みなし。先生を本気にさせる人はどんな人なんだろうとよく観察していました。

東鍼校に助手として同行したときも、『褒められている時は見込みがないよ』とぼそっとうと、みんなどーんと落ち込むんです。でも、そういう嫌な言葉を投げかけたとき、成長する人は目の色が変わることを知りました。また、自分の足りないところに気づきましたね」

軸と方向性をもつことの大切さ

開業して7年間、無事故。その秘訣は軸を「経絡按摩」にしっかり置いているからだそう。

「伏見先生のまんま、寸分たがわずとりあえず真似る。『これしか出来ないからこれをやっていこう』という軸がいつもありました。だから私は迷わないで済んだ。まだまだ自分のものにならないですが、毎日必死です。

開業するにはマーケティングは大切だと思いますが、方向性はもっと大切。自分が何をしたいのか。漠然と『弱っている人にあん摩をする』ではなく、『年寄りにしたい』とか、『働く若い人たち』『明日使う身体にしたい』など、それが方向性だと感じます。

自分が目指す方向によって手技も変わる。今日、明日、すぐに身体を使えるようにしなくてはいけない場合もある。

病院勤務をしていた時代に、わたしは働く女性達の役に立ちたい、困った時の駆け込み寺になりたいと思いました。介護、子育て、仕事を持つ女性の後押しがしたいと気づきました。

何をテーマにするか？ 自分の目指す方向へ分岐のたびに選択していくと、なんとなく自分の進む道がわかると思います」

仲田先生ご自身もお父様のシングル介護をしながら現在、開業しています。介護と治療院を両立しているとは思えないほどパワフルな先生の元気の源は、韓流スターだそうです。趣味などの息抜きを持つ事も、長く続けていくコツだと感じました。

(インタビュー／52回生H22年度卒 田中裕実子)

教えて、卒業生！ 新卒開業Q&A

Q：東洋鍼灸を選んだ理由は？

A：東洋鍼灸専門学校は、臨床家の先生が多く、さまざまなお話を聞くことができるのが良い！ いろんな先生がいらっしゃるので、時に真反対のことを言われ、混乱することもありましたが、どの先生も鍼の真髄への道を教えてくださっていたのだなと、開業している今だからこそ特にわかります。

Q：なぜ鍼灸科に？

A：まず、自分は二束のわらじは履けないと思ったこと。そして、鍼灸科はあん摩科に比べ、特に鍼灸の実技が充実しているので、まじめに授業をうければ、良い臨床家になれると思ったからです。

Q：学校の勉強で役立ったのは？

A：いまは多くの勉強会が開かれていますが、実際に自分で開業してみようと思うことは、学校で教わったことを、臨床を通して、自分のものにしていくのが大事ということです。

これまで接したこともないような症状の患者さんもいらっしゃいます。しかし、学校で培ってきたことを土台にして、しっかり自分で調べる。それからとにかく考えることで、新たな発見となり、それが結果的に患者さんが治っていくことに通じます。それがまた自分を育てる糧となり、前に進むことができるのです。（*実際貫井先生は、常にノートを片手にすべての先生の授業をメモしておりました）



在校生やこれから鍼灸を学ぼうという方のために、「気になる疑問」をズバリ聴くコーナーです。今回は卒業後の開業について。伝統的な町、東京都・国分寺に開業したばかりの貫井薫さん（52回生、H22年度卒）のもとを訪れてみました



足裏にお灸をする貫井さん。温かくて気持ちいい～

Q：開業するのに、実際どのくらい費用がかかりましたか？

A：家賃代（敷金、礼金含む）と、必要物資を買う資金、すべてあわせて約170万円です。

家賃は12万円ほどですが、開業してから赤字はありません。あくまでも赤字がないというだけですが、開業したては患者様にきていただくことだけでも大変です。自分は在学中から、普段からお付き合いのある人たちに鍼灸の話をし、理解してもらうことで、患者様としてきていただけるようになりました。

在校生と、これから鍼灸を学びたいと考えている方へメッセージをお願いします。

治療は学校で教わることで十分にできます。大事なのは、教わったことを自分のものにできているかということだけです。どうか授業をしっかりまじめに聞いてください。そして、自分の頭でしっかり考えてください。それが臨床家になるための近道だと思います。

（インタビュー／52回生H22年度卒 渡邊記章）

東鍼校訪問記

TOSHINKO REPORT



もと製図学校があった場所に実技棟が誕生。本校舎の隣です



実技棟がオープン！

昨年10月1日に誕生した実技棟。1階・2階は電動ベッドが配された実技教室、3階はプロジェクターを備えた座学教室となっています。本校舎と隣接しており、渡り廊下を介して行き来が可能。放課後は生徒同士が稽古に励み、休日は各研究会に利用されています。国家試験に目を奪われがちで、刺鍼・施灸技術が疎かにされている昨今の鍼灸界にとっては喜ばしいニュースだと思いました。研究会を主宰されている先生方は是非一度ご見学されてみてはいかがでしょうか。

卒業して早幾年。母校は元気だろうか、案じるみなさまに代わって新卒Kが東鍼校へ！新しく完成した実技棟と教務室を訪れてまいりました

教務室をたずねて・特別対談 東鍼校の過去と未来

東鍼校は昔、どのような学校だったのか。今回は、元同窓会会長で相談役である塚本此清先生と本校講師で同窓会副会長の伏見富士子先生にお話を伺いました。

(以下、文中の敬称は略させていただきました)

——本日は御忙しいところ、インタビューを受けていただき、有り難うございます。先生方の学生時代、東鍼校はどんな学校でしたか。

塚本:校舎はここじゃなくて、歌舞伎町のほうで、本科・別科・柔整と3つあって。今より人数が多くて狭かったです。歌舞伎町の校舎は。それをやりくりして授業を進めていた訳です。

伏見:生徒たちはとても生き生きしていました。トイレの掃除なども自分達でやっていました。誰も文句を云わず。

塚本:教室だけでなく廊下の拭き掃除も。それでも、みんなそれが当たり前だと思ってました。

つながりのつよさ

伏見:つながりは本当に強かったですよ。山下(詢)先生、伊藤(瑞凰)先生、橋本(三郎)先生、宮入(隆博)先生、小野(文恵)先生、石野(信安)校長先生、他の先生方も本当に生徒を大切に惜しみ無く、指導していただきました。卒業後も水上先生にはみんな大変お世話になっていました。

卒業生と在校生のつながりも強かった。要するに学校全体が、お互い心が通じあってたんです。

卒業生と在校生、在校生の上下、古い卒業生と新しい卒業生のつながり、それが東鍼校の特徴だった。

東鍼生の誇り

伏見: そのころ、うちの学校は他校から注目されていたものですから、東鍼祭などは他校の見学者が多かったです。だから、学術発表のほうもしっかり発表しました。学校を出ても「私は東鍼校卒」という意識は強かったと思います。

塚本: 卒業後も誇りをもち続けていたんですよ。

伏見: ええ。誇りがあって、その誇りのもとに仕事を続けてきました。

塚本: 私たちの頃は、理事長が(柳谷)正子先生。理事長であると共に、あんま(古方)・マッサージについて直接教えて頂いて。試験も理事長にやって頂きました。この学校を大きくしたのは素霊先生を継いだ正子先生なんです。経営者としての正子先生をもっと顕彰して欲しいです。

伏見: だから、私の本(『伏見式経絡按摩』)の後ろにちゃんと書いてあるでしょ。この本書いたとき、絶対、正子先生の名前出すってきめてて、出したんです。

塚本: とにかく、ここも他所の学校並みに苦しい状態です。正直言って。だけど、母校を発展させる為に卒業生の支えが必要だと思っています。

あったかい学校に

——最後にお聞きいたします。これから東鍼校はどのような学校になって欲しいと思いますか。

伏見: 本当に、前はみんながあつたかくてね、それで和気あいあいと、授業を受けて、先生方も本当に惜しみ無く色々教えて下さいました。今は国からの色々な規制があるから、それぞれの先生は必死です。そのようなことが少し落ち着けば、元のような学校に戻ると思います。

私は実技を教えているせいか、希望を持てます。一生懸命です。良い学生たちが多いと思います。あること頭良くて、あることが全然わからないって人は一杯いますからね。やっぱり総合的にね。それには人間味がさらに必要だと思います。

国際的に活動を

塚本: 昔の鍼灸師は、みんな国際的に目が向いているんです。海外で開業したり、学校つくったり。そういう先生もいましたね。国内ばかりじゃなくて、海外でも活躍する拠点がここ、東鍼校なんです。

同窓会規約の中にも、海外との交流を強めるって書いてあります。それは皆、海外で活躍しているからなんです。日本ばかりではなく、国際的にも活動することも同窓会で進めて欲しいです。少し大きな目で活動していくと、東鍼校の輪が世界中に広がる、そう思います。

(インタビュー／52回生H22年度卒 加藤資)

【ご意見お聞かせください】

- ①H24年4月29日、同窓会総会の講演希望テーマ
- ②同講演を依頼したい講師
- ③同窓生が行う各種勉強会インフォメーション(次号、医黄集門に掲載予定: H23年12月末日〆切り)
- ④同窓会について全般(次号、明年秋発行「同窓会だより」に反映いたします: H24年8月末日〆切り)
- ⑤その他ご意見

以上についてお待ちしております。

宛先は、東洋鍼灸専門学校同窓会 メール: doso@toyoshinkyu.ac.jp

または同窓会会長(〒120-0035 東京都足立区千住中居町8-12 天野寛敏)までお願いいたします。

【会費納入のお願い】

同窓会は、皆さまの会費で運営しております。同窓会では、「東洋鍼灸専門学校同窓会だより」を会費未納の方に、会費振込用紙を同封いたしました。同窓会費は年間3000円です。会費で賄う事業は同窓生や学校の近況等の情報を通して同窓生みなさま方と母校をつなぐ架け橋になればと考えて運営しております。

同窓会の活動報告

■平成23年度事業計画

会務運営方針

- 1 同窓会会員数を増やす
- 2 同窓生の運営している研究会動向調査、相互交流、特別号での発表
- 3 会員名簿発行事業

■同窓会事業報告

H23年3月29日（火）

醫黄集門第40号、東日本地震被災地6県の会員以外の861人に発送。

H23年4月24日（日）

同窓会総会に先立ち、村松輝久先生、鍼灸・気功・整体「実践経営塾」塾長による講演。

演題：[指先気功法による奇経調整]



H23年4月29日（金）

午前：同窓会総会。午後：特別講演

講師：船木寛伴先生、皇漢堂鍼灸院長

演題：[古典鍼灸脉診の基本と臨床]



両日、学生を含め多くの同窓生の参加。

■役員会報告

H23年6月21日

東洋鍼灸専門学校素霊記念館にて新体制役員の招集を行い今後の方針などを議論。

H23年9月6日

東洋鍼灸専門学校素霊記念館にて、本年度の第2回役員会を開催。

①総会の総括、②H23年事業中間報告、③今後の事業予定の確認、④同窓会だよりの検討、⑤次号医黄集門企画内容について検討。

メールを利用した意見交換を継続して行い、若い卒業年度の理事の先生方が同窓会だよりの作成に力を出し合って活動を進めています。以上、ご報告申し上げます。

■役員新体制

会 長	天野寛敏	(S52年度卒)
副 会 長	伏見富士子	(S51年度卒)
	戸川元志	(H14年度卒)
会 計	松本正行	(H13年度卒)
	田淵永理	(H15年度卒)
会計監査	桐木優	(H20年度卒)
総 務	種田啓子	(H12年度卒)
	早川美代子	(H15年度卒)
編 集	柳川唱徳	(H7年度卒)
	千田康之	(H17年度卒)

H21年度卒理事

勝山義樹、風間正男、福井滋、金澤礼子

H22年度卒理事

山岸広志、加藤資、田中裕実子、渡邊記章

【寄 付】 同窓会顧問・塚本此清先生から寄付を頂戴しました。東日本大震災義援金御礼。ありがとうございました。

【計 報】 同窓会・元会計飯田広子先生

(報告／総務 早川美代子、会計 田淵永理)

同窓会会員のみなさまへ

同窓会の議題として以前から上程され、結論の出ないまま経過したいくつかの議案があります。必要と見た議案は再度、取り組んでまいります。手順として、①役員会で原案を作成、②顧問・相談役会とのすり合わせ、③同窓会総会に上程し議決（場合によっては継続審議）を経て進めたいと思います。

■明年4月の総会で決定すべき事項

会則の改定：会長の選出について
（役員会原案）

原則として、現会長からの推薦者を役員会に推挙し新会長候補として議決。ただし、役員2名以上の推薦による届出のある場合は新会長候補と定める。

複数名の候補の場合は会長選挙を実施する。
（附則として選挙管理規定を定める）
顔写真・所信表明・推薦人等を会長候補届出用紙に記載。
写真・所信表明は医黄集門に同封。
選挙管理委員、2名選出。

- | | |
|-----------|------------|
| ①公示・立候補受付 | H24年2月1日から |
| ②締め切り | H24年2月10日 |
| ③HP告知 | H24年2月15日 |
| ④医黄集門にて告知 | H24年3月中 |
| ⑤総会選挙 | H24年4月29日 |

■時間をかけて審議し議決する事項 ～永年会費制度についての再検討～

役員の労力は毎年徴収する同窓会費徴収業務にとられ、健全で前向きな同窓会事業運営へのエネルギーが損なわれていると感じます。「永年会費制度」は本来の姿、今後の検討事項です。
①毎年の基本事業費（同窓会だより・医黄集門の発行など）は永年会費でまかなう。
②講習会等は、受講料を設定し独立採算をめざす。ただし、新卒業生は数年間無料。
③同窓会名簿の発行。
（現在は5年に一度会費納入者に配布。新卒者には全員無料配布。それ以外の希望者には総会当日または郵送で実費配布。会員名簿の管理も含めて、電子化も検討）
以上の事項を永年会費制度にむけて「セット」でご提案します。

■附則として役員会で定める事項

講演会の講師料について
医黄集門の広告掲載料について

■今年度から採用すること

- ①総会当日「会員のみなさまからのアンケート」を実施する。
- ②東洋鍼灸専門学校ホームページに「活動予定・卒業開業者」等の告知が出来るよう提案する。
- ③アンケート等を活用し「講演者・テーマの要望」を募る。
- ④本校の卒業生が取り組む「研究会などの情報」を収集し、引き続きお知らせする。

【ご意見をお聞かせください】

本ページ内容に関しまして、ご意見お待ちしております。
宛先は、東洋鍼灸専門学校同窓会 メール：doso@toyoshinkyu.ac.jp
または同窓会会長（〒120-0035 東京都足立区千住中居町8-12 天野寛敏）まで。

第四十八回 東鍼祭開催のご案内

鍼灸と、出会う。

11月19日(土) 12:30～16:00

11月20日(日) 10:00～16:00

第48回東鍼祭が上記日程で開催されます。今回のテーマは「鍼灸と出会う」。日頃の疲れを癒す東鍼校伝統の無料あん摩や、鍼灸についての学生研究展示、ネパールで医療支援活動をされており、本校卒業生でもある畑先生が代表を務める「よもぎの会」を支援するためのネパール展ほか、当日の講演会は3名の先生方をお招きしています。盛りだくさんの内容を学生たちが準備して、みなさまのご来場をお待ちしております。

【講演会】

小林昭司先生（19日 13:00～15:30）

三輪正敬先生（20日 10:15～11:30）

向野義人先生（20日 13:00～15:30）

【会場】

講演会会場は両日とも東洋鍼灸専門学校 第二校舎3階講堂。

講演開始15分前より開場いたします。

小林昭司先生

1942年東京都生まれ。上智大学経済学部卒。東洋鍼灸専門学校卒。1972年東京教育大学（現筑波大学）教育学部理療科教員養成施設卒。同年太子堂鍼灸院開業。1976年から関東鍼灸専門学校講師を兼務。積聚会主宰。2007年関東鍼灸専門学校名誉講師。著書に『易经入門』『積聚治療』『東洋医学講座 第10巻』『Acupuncture Core Therapy』『Paradigm Publications』など。

向野義人先生

1947年福岡県生まれ。医師、医学博士。九州大学医学部卒業後、三重大学第三内科助手、上海中医学院針灸部門へ研究留学、福岡大学医学部第2内科講師をへて、1990年より福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科教授。同大学大学病院東洋医学診療部初代診療部長。現在ケア・ワークモデル研究会会長などを務める。著書に『経絡テスト』『経絡テストによる診断と鍼治療』『経絡ストレッチ』など。

三輪正敬先生

東京都立大学人文学部心理学科卒業。都立国立高校ラグビーコーチ、心理職などを経た後、東洋鍼灸専門学校入学。2007年同校卒業と同時に東京都調布市にて敬風堂鍼灸院を開院。いやしの道協会にて、横田観風師に師事し、学・術・道を併せた医道の研鑽に励む。2011年災害鍼灸マッサージプロジェクト代表。共著に『あはき心理学入門』がある。

東洋鍼灸専門学校同窓会だより 第5号

発行日：平成23年11月1日

事務局：東洋鍼灸専門学校内

発行：東洋鍼灸専門学校同窓会

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-4

発行者：同窓会会長 天野寛敏

TEL：03-3209-5436 FAX：03-3209-5569

編集：「同窓会だより」編集委員会

E-mail：doso@toyoshinkyu.ac.jp